

【第1号議案】 2021年度（令和3年度） 事業報告案

1. 概況

1. 展示事業

(1) 利用状況

2021年度（令和3年度）は3本の企画展示「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」、「生誕130年 松岡譲」、「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」を開催し、3,205名（うち有料2,304名）の来館者を迎えました。この3本の企画展示および後述するネットワーク協議会事業は、（公財）新潟県文化振興財団から受託した「郷土の文化人顕彰事業」です。

開館日は254日間。休館日は月曜日（祝休日を除く）、展示替え期間、年末年始を含む111日間でした。

(2) 常設展示事業

2021（令和3）年11月に文化功労者に選ばれた鈴木厚人氏（五泉市生まれ、素粒子物理学者）のパネルを作成して、追加展示しました。文化功労者が17名となり、文化勲章受章者、文化功労者、人間国宝を紹介する受章者コーナーが手狭となり、人間国宝パネルを別展示としました。

また、これまで企画展示や副読本等で紹介し、地元でも顕彰されている文化人5名、桑田立斎（新発田市）、坪谷善四郎（加茂市）、屋井先蔵（長岡市）、半藤一利（長岡市ゆかり）、二代目英太郎（弥彦村）のイラスト、ネームプレートを作成して展示しました。

(3) 企画展示事業

3本の企画展示「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」、「生誕130年 松岡譲」、「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」に加えて、「生誕130年 松岡譲」開催中に、新潟日報社所蔵の坂口安吾直筆手紙を松岡譲の娘婿で坂口安吾の編集担当を務めた故半藤一利の書籍『坂口安吾と太平洋戦争』等とともに館内の一部で展示しました。

① 「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」

2021（令和3）年4月6日（火）～7月11日（日） 84日間

入館者数 635名（うち有料395名）

② 「生誕130年 松岡譲」

2021（令和3）年7月27日（火）～11月3日（木・祝） 86日間

入館者数 1,186名（うち有料833名）

併催「坂口安吾と半藤一利」

2021（令和3）年10月12日（火）～11月3日（木・祝） 20日間

③ 「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」

2021（令和3）年11月2日（火・祝）～2022（令和4）年3月6日（日） 84日間

前期：11月23日（火・祝）～1月16日（日） 42日間

後期：1月18日（火）～3月6日（日） 42日間

入館者数 1,369名（うち有料1,081名）

これら企画展示で19名の文化人（うち2名は県外の文化人）を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。

2. ネットワーク協議会事業

(1) 第5回にいがたネットワーク協議会

R3年度は当初日程から、感染状況が落ち着いている時期に延期して開催しました。参加団体は5団体でしたが、感染禍での顕彰活動や連携について忌憚ない話し合いができました。

(2) 出張展示支援

①「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」をきっかけに、南魚沼市教育委員会は郷土史発刊記念事業の一つとしてR3年9月に水島あやめ脚本の無声映画上映会と講演会を開催。会場では本展で使用後に提供した関連図パネル等も展示されました。R4年度から水島あやめ顕彰パネル（当館作成関連図パネル含む）を市民ホールで通年展示しています。

②「生誕130年 松岡譲」では松岡譲を顕彰するために創設した長岡ペンクラブから書籍提供や資料借用の協力をいただいた。本展がきっかけになってか、R4年2月に展示協力いただいた長岡市立中央図書館で、松岡譲の遺品も所蔵する新宿区立漱石山房記念館の学芸員による講演会が開催されました。

③「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」では長年、尾竹竹坡やその兄弟の作品を調査し、企画展を開催してきた新潟市潟東樋口記念美術館・新潟市潟東歴史民俗資料館の前館長・中島榮一氏と現館長の橋本博文氏にご協力いただいた。本展をきっかけに、尾竹竹坡作品の調査依頼や寄贈相談が入り、前館長および現館長を中心に調査での連携を図ることができた。

(3) 館報の発行

2022年3月に館報である「にいがた文化 第7号」を刊行。ネットワーク協議会参加館や参加団体、県内文化施設等に配布しました。新潟県県博物館協議会未加入の小さな顕彰館や顕彰団体の単発イベントなどの情報を掲載しているため、郷土史愛好者に好評を得ています。

(4) PR 動画作成呼びかけ

R2年度末（令和3年3月）、ネットワーク協議会の参加館や参加団体宛てに呼びかけ文書とPR動画作成マニュアルを郵送しましたが、反応はありませんでした。

令和3年10月に開催した第5回ネットワーク協議会で、当館で作成したPR動画を見てもらい、動画作成の呼びかけをしたが、新たな反応もありませんでした。

(5) 参加団体による出張講座（R3年度パイロット事業）

感染症禍で外出しにくい状況のため、ネットワーク協議会参加団体による出張講座を企画しました。10月に開催した第5回ネットワーク協議会の開催案内文書送付時に、出張講座についてのアンケートを同封。第5回協議会でも呼びかけた結果、11月に巻菱湖記念時代館の磯島瑛俊顧問が講師に手を挙げてくださり、R4年1月に第1回講座「化政文化の潮流から見る 巻菱湖と浮世絵」を開催しました。

3. 教育普及事業

企画展示関連事業として、担当学芸員による解説会を当初全9回予定しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため1月を中止しました。外部講師による講演会は、5月に水島あやめ脚本の無声映画『明け行く空』の活動写真弁士と音楽付き上映会と研究者による講演会（「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」展）を、1月に尾竹竹坡や兄弟の作品を調査している中島榮一氏（新潟市潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館元館長）による講演会を開催しました。

パイロット事業として、ネットワーク協議会参加館、団体による講座を企画しました。感染禍で県内の移動もままならない状況だったこともあり、講師に来てもらい顕彰人物や館をPRする講座を開催する試みです。巻菱湖記念時代館の磯島瑛俊顧問からご協力いただき、1月に開催しました。

感染状況が落ち着いていた時期にイベントを開催したこともあり、参加者総数は 260 名（前年度 63 名、前年比 412%）。内訳は作品解説会が 56 名（前年度 24 名、前年比 233%）、外部講師による講演会は 204 名（前年度 39 名、前年比 523%）でした。小中学校または高校などによる団体観覧（総合学習含む）は 9 校・団体のべ 228 名（前年度 7 校・団体、146 名、前年比 2 校増、対前年度比 156%）の来館がありました。

館外活動では、学芸員によるフリーペーパーや新潟日報への寄稿が 2 本ありました。講演会は武藤事務局長による新潟の医学者を紹介した講座が 2 回、のべ 55 名（前年度 81 名、前年比 67%）の参加がありました。

4. 調査及び研究・研修事業

文化人データベース構築作業を進めました。また、当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加しました。

5. 収集・保存、資料貸出

県出身またはゆかりの文化人に関するの 1 件（原稿）の資料寄贈受入がありました。

6. 広報

平成 27 年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST の 3 団体から助成または共催をいただき、企画展示の規模に合わせて広報しました。従来通りのチラシやポスター等の紙媒体と SNS（Facebook）での投稿の二本柱で発信を進めました。

2. 事業別報告

1. 展示事業

(1) 利用状況

| 開館日 | 休館日 | 入館者総数 | うち有料 | 普及事業参加者総数 |
|----------------|----------------|----------|----------|---|
| 254 日 / 365 日間 | 111 日 / 365 日間 | 3, 205 名 | 2, 304 名 | 260 名 (担当学芸員による解説会 および企画展示関連事業、 ネットワーク協議会関連事業) |

※2020（令和 2）年度実績：開館日 247 日間 入館者総数 2,145 名 普及事業参加者総数 63 名

(2) 常設展示

| ケル | テーマ名 | 会期 | 開催日数 | 備考 |
|----|---|---------------------------|------|----------------------------------|
| 1 | ① 受賞者「新潟市出身の歴史小説作家 小松重男」 ② 医学「没後 80 年 石黒忠恵」 ③ 新潟の女性「川田芳子 水島あやめが脚本を手がけた映画 3 本に出演」*1 ④ 美術「露谷虹児 あやめの少女小説の挿絵担当 / 川上四郎 あやめと同じ雑誌で活躍した『日本童画の父』」*1 ⑤ 文学「吉屋信子 水島あやめが少女時代から憧れていた作家」*1 | 4 / 6 (火) ~ 7 / 11 (日) | 84 | *1. 企画展示「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」の関連展示 |

| | | | | |
|----|--|---|-----|-------------------------------|
| 2 | ① 受賞者「松岡譲と堀口大樹」*1 ② 医学「新潟医学所教師・中根重一―夏目漱石の岳父」*1 ③ 新潟の女性「夏目鏡子―松岡譲の義母／『漱石の思ひ出』装幀のこだわり」*1 ④ 美術「津田青楓―松岡譲の本を装幀した画家」*1 ⑤ 文学「文化人との手紙―會津八一・坂口安吾・長谷川巳之吉」*1 | 7/27(火)～ 11/3(火・祝) | 86 | *1. 企画展示「生誕 130 年松岡譲展」の関連展示 |
| 3 | ① 受賞者「三浦小平二・伊藤赤水」 ② 医学「民藝運動と式場隆三郎」*1 ③ 新潟の女性「竹坡と『青鞥』の女性たち」*1 ④ 美術「竹坡とにいがたの画家」*1 ⑤ 文学「富山の薬売りとにいがたの文化人」*1 ⑥ 反骨「尾竹三兄弟の『忠臣蔵』(前期展示)」*1 | 11/23(火・祝)～ 4/3/6(日) ※前後期あり (前期～1/16、 後期 1/18～) | 84 | *1. 企画展示「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」の関連展示 |
| 通年 | 文化勲章 (10 名) | 4/6(火)～ 4/3/6(日) | 254 | 文化功労者 1 名 (鈴木厚人氏) の紹介パネルを追加 |
| | 文化功労者 (17 名) | | | |
| | 人間国宝 (5 名) | | | |

(3) 企画展示

① 「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」

| | |
|----------|--|
| 会 期 | 2021 (令和 3) 年 4 月 6 日 (火) ～ 7 月 11 日 (日) 84 日間 |
| 主 催 | にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社 |
| 共 催 | 新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ |
| 後 援 | 南魚沼市教育委員会 |
| 協力企業 | 田村紙商事株式会社 |
| 展示協力 | 因幡純雄氏 (水島あやめ研究家)、高野恵美子氏 |
| 趣 旨 | 映画産業が生まれたころ、松竹蒲田撮影所で日本初の女性脚本家が活躍しました。南魚沼市出身の水島あやめ (1903～90 年) です。水島が書いた脚本は松竹初の女優・川田芳子 (新潟市出身、1895～1970 年) らの主演により映画化されました。 水島が脚本家として活躍したのは無声映画の時代でした。映画が無声からトーキーに切り替わるころ、水島はかつて憧れた少女小説作家に転進。そこでは、すでにスター作家であった吉屋信子 (新潟市、1896～1973 年) や落谷虹児 (新発田市出身、1898～1979 年) らと出会い、第一線の少女小説家として多くの少女たちに夢を与えました。 本展では、水島あやめの没後 30 年の節目に、関連資料とともに水島あやめを紹介しました。 |
| 紹介文化人 | 水島あやめ (南魚沼市)、川田芳子 (新潟市)、吉屋信子 (新潟市)、落谷虹児 (新発田市)、川上四郎 (長岡市) [湯沢町ゆかり] |
| 協力団体及び個人 | 展示協力と同じ |
| 展 示 | 日本映画初の女性脚本家・水島あやめを、水島あやめご遺族や研究者が所蔵する資料を展示して紹介。当時、水島あやめと一緒に仕事をした松竹蒲田所属の女優・川田芳子 (新潟市出身) や小説家・吉屋信子 (新潟市生まれ)、水島あやめの小説に挿絵を描いた落谷虹児 (新発田市出身) から新潟県の文化人も紹介した。 |
| 関連事業 | ① 無声映画『明け行く空』活動写真弁士・音楽付き上映と講演「日本初の女流脚本家・少女小説作家 水島あやめ」 参加者数：95 名 開催日：5 月 28 日 (金) 会場：新潟日報メディアシップ 2 階 日報ホール 上映会出演：佐々木亜希子氏 (活動写真弁士)、永田雅代氏 (ピアニスト) 講演会講師：因幡純雄氏 (水島あやめ研究家) ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、定員 120 名で募集。 ② 担当学芸員による解説会 全 3 回 (3 回とも同じ内容) 参加者総数：17 名 開催日：4 月 17 日 (土)、5 月 15 日 (土)、6 月 19 日 (土) |

| | |
|--|---|
| | 会場：当館 担当：石垣雅美 |
| 広 報 | ① チラシ (A4、両面カラー、割引券付) 10,000 部、ポスター (B2、片面カラー) 400 部 (県内 顕彰施設や図書館などに発送) ②新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス (20 回掲載) ③テレビ CM：NST ④ラジオ CM：BSNラジオ ⑤ウェブサイト：当館、メディアシップ、NST イベント、新潟文化物語 ⑥雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」(イベント情報) |
| 掲 載 記 事 または番組 | 4 月 1 日 (木) NIPPO TAKE A WALK 2021 年 4 月号 みんなの掲示板 (企画展示、関連イベ ントの案内) 4 月 7 日 (水) 新潟日報 まちの掲示板 催し (企画展示の案内) 4 月 12 日 (月) 新潟日報おとなプラス まちの掲示板 催し (企画展示の案内) 4 月 16 日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー 展覧会 (企画展示の案内) 4 月 30 日 (金) 新潟日報「水島あやめの足跡感じて 新潟中央区 自筆原稿などを展示」(企画展 示の取材記事) 5 月 2 日 (日) 新潟日報 窓欄「水島あやめの発信に意義」(読者投稿) 5 月 10 日 (月) 新潟日報おとなプラス 特集「南魚沼市出身・日本初の女性脚本家 自立貫いた 水島あやめ」(執筆：おとなプラスライター・和田明子氏) 5 月 14 日 (金) 新潟日報 「水島あやめ脚本『明け行く空』28 日に上映会 メディアシップ」 5 月 28 日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 5 月 29 日 (土) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 6 月 2 日 (水) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 6 月 2 日 (水) 新潟日報「無声映画 弁士が彩る 中央区 水島あやめ作品上映」(5/28 取材記事) 6 月 4 日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 6 月 22 日 (火) 新潟日報おとなプラス 読者のひろば「水島あやめの人生から感銘」 6 月 28 日 (月) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 7 月 1 日 (木) NIPPO TAKE A WALK 2021 年 7 月号 みんなの掲示板 |
| 入 館 者 数 | 635 人 (うち有料 395 人) |
| 総 括 (展示全般 および地域 への関わり と効果など) | ○ 評価点 ・水島あやめ研究家の因幡純雄氏のご協力のもと、地元の顕彰団体「南魚沼市ちとせ会」(「水島 あやめを NHK 朝ドラに推進する会」の活動も並行)、南魚沼市教育委員会と連携することができ た。 ・2021 年度上期の NHK 連続テレビ小説「おちょやん」が浪花千栄子 (1907~1973 年) をモデル に、松竹家庭劇 (現松竹新喜劇) を舞台にしていたため、同時代に松竹蒲田撮影所で活躍してい た水島あやめ (1903~1990 年) を引き立てるような展示を作ることができた。 ・新型コロナウイルスの拡大状況を考慮して、準備段階では関連イベント未開催も検討したが、当日回収 したイベントアンケート ((20) を参照) を見ると、大部分が好意的な感想であった。拡大防止対策 など準備が多く大変ではあったが、感染者が出る事無く、イベントを終了することができた。 ・開催に際し、水島あやめが六日町の疎開時代に書いていた地元新聞 (『魚沼新報』) への寄稿記 事を見つけ、研究者と共有することができた。また、会期中に国立研究機関の見学もあり、水島 あやめを資料とともに紹介することができた。 ■ 検討課題 ・新型コロナウイルスの流行期が読めないため、県外から講師等を招いてのイベント開催を企画しないつ もりでいたが、水島あやめ関係者の熱心な提案があり、直前で開催を決めた。令和 2 年度とは異 なり、感染症拡大防止ガイドラインに沿ってイベントを企画、開催したいと希望しても、開催判 断が難しくギリギリになってしまった。イベント開催時のリスクを整理して、次年度以降に生か したい。 |
| 担 当 | 石垣 雅美 |

② 新潟県文化祭 2021 参加協賛事業 「生誕 130 年 松岡譲」

| | |
|-----|---|
| 会 期 | 2021 (令和 3) 年 7 月 27 日 (火) ~ 11 月 3 日 (水・祝) 86 日間 |
| 主 催 | にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社 |

| | |
|-----------|--|
| 共 催 | 新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ |
| 協力企業 | 田村紙商事株式会社 |
| 展示協力 | 半藤茉莉子氏、本覚寺（長岡市）、新宿区立漱石山房記念館、長岡市立中央図書館、長岡ペンクラブ |
| 趣 旨 | <p>小説家・松岡譲（1891～1969年）は、2021年に生誕130年を迎えました。新潟県古志郡石坂村（現長岡市）、真宗大谷派の本覚寺の後継ぎとして生まれた松岡は、仏門に反発して上京、東京帝国大学哲学科に進みました。在学中に夏目漱石の門人となり、卒業後、漱石の長女・筆子と結婚しましたが、筆子に恋していた久米正雄が小説『破船』で友情を裏切った人物として松岡を描いたため、文壇をはじめ世間から孤立しました。沈黙のちに出版した自伝的小説『法城を護る人々』は大ヒットし、代表作となりました。また、生涯にわたって師であり岳父でもある漱石の研究に力を注ぎました。</p> <p>本展では、松岡譲の著書や原稿などの資料を展示しました。また、度々個展を開き新潟県書道協会創立時に顧問を務めるなど、その分野でも多才ぶりを発揮した書画作品も紹介しました。</p> |
| 紹介文化人 | <p>松岡譲（長岡市出身）、堀口大學（東京都出身・長岡市ゆかり）、長谷川巳之吉（出雲崎町出身）、土田杏村（佐渡市出身）、相馬御風（糸魚川市出身）、坂口安吾（新潟市出身）、中根重一（東京都出身・新潟市ゆかり）、森成麟造（上越市出身）</p> <p>県外：夏目漱石（東京都出身）、津田青楓（京都府出身）</p> |
| 協力団体及び個人 | 展示協力と同じ |
| 展 示 | <p>本展では、松岡譲研究者の関口安義氏（都留文科大学名誉教授）の『評伝 松岡譲』、新宿区立漱石山房記念館で開催された《通常展》テーマ展示「越後の哲学者 松岡譲」（2020年）・「松岡譲の漱石研究—岳父への想い—」（2021年）を参考にして、展示を構成しました。また、DMM GAMESにて配信中の文豪転生シミュレーションゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップを行い、ゲームに登場するキャラクター、松岡譲の等身大パネルを展示しました。企画展を観覧した方のうち、希望者にはノベルティしおりをプレゼントしました。</p> |
| 関連事業 | <p>① 担当学芸員による解説会 全3回（3回とも同じ内容） 参加者総数：27名 開催日：8月14日（土）、9月11日（土）、10月16日（土） 会場：当館 担当：伊豆名皓美</p> <p>② 企画展解説冊子の作成、販売（A4中綴じ、44ページ、フルカラー、400部作成、販売価格は税込500円） ※ 準備当初は、松岡譲のご令嬢・半藤茉莉子氏の講演会を企画し、講師依頼をしていたが、多忙さと体調などを理由に辞退されたため、同氏へのインタビューを掲載した解説冊子作成へと変更した。</p> |
| 広 報 | <p>① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送）</p> <p>② 新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス（17回掲載）</p> <p>③ ラジオCM：BSNラジオ</p> <p>④ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム、Kita-Colle ART（ミュージアムポータルサイト）</p> <p>⑤ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」</p> |
| 掲載記事または番組 | <p>8月1日（日） NIPPO TAKE A WALK 2021年8月号 みんなの掲示板（企画展示、タイアップ展の案内）</p> <p>8月6日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>8月7日（土） 新潟日報「漱石の娘婿・長岡出身 松岡譲 多才な作家の人となり紹介 11月3日まで いがた文化の記憶館」（企画展示の取材記事）</p> <p>8月27日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー</p> <p>9月1日（水） NIPPO TAKE A WALK 2021年9月号 みんなの掲示板</p> <p>9月3日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー</p> <p>9月7日（火） 新潟日報おとなプラス まちの掲示板（企画展示の案内）</p> <p>9月9日（木） 新潟日報おとなプラス まちの掲示板</p> <p>9月14日（火） 13：00～13：50 FM ながおか「ひるどきラジオ」（企画展示のPR）</p> <p>9月25日（土） 新潟日報「28日と11月3日 松岡譲展が無料 新潟・文化の記憶館」</p> |

| | |
|-----------------------------|--|
| | <p>10月1日(金) NIPPO TAKE A WALK 2021年10月号 みんなの掲示板</p> <p>10月1日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー</p> <p>10月1日(金) 季刊誌『リバーバンク R リポート第33号』(一般社団法人 地域ルネッサンス創造機構 シンクタンク・ザ・リバーバンク発行)「にいがた文化の記憶館から発信する県内の偉人 企画展示『生誕130年 松岡譲』を企画して思う」(松岡譲展の概要を紹介、執筆者:伊豆名皓美)</p> <p>10月8日(金) 新潟日報おとなプラス まちの掲示板</p> |
| 入館者数 | 1,186名(うち有料833名) |
| 総括 (展示全般および地域への関わりと効果など) | <p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染者数が比較的落ち着いた時期には、本展観覧を目的とした県外からの来館者も訪れた。アンケート回答者全64名のうち、県外からの来館者は19名(約30%)だった。松岡譲が新潟県内だけでなく県外からも広く興味を持たれていることが窺えた。 ・松岡譲が登場するゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップしたことで、同ゲーム公式HPやSNSで本展の情報が発信された。それらを見て本展を知った人もおり、アンケートへの回答では回答者全64名のうち該当者は17名(約26%)だった。アンケートで明確に回答を得られた数は以上だが、実際にはさらに多いと思われる。今回のタイアップをきっかけに当館を初めて訪れた人も多かった。 ・松岡譲は寡作のイメージを持たれることが多いが、調査を進めると、自身の創作や随筆、漱石研究の分野で多くの著書を残していることがわかった。代表作と言われる『法城を護る人々』や『憂鬱な愛人』のほかにも作品を発表し、純文学の初志を貫徹した人物であることを伝えるために、著書(改訂版や同内容で装幀のみ変えたもの以外)をほぼ網羅するように努め、視覚的に数が伝わるように壁面に面陳列にするなど展示の仕方にもこだわった。 ・新宿区立漱石山房記念館の展示実績を参考にさせていただきだけでなく、長岡疎開後の地元新聞での松岡譲の連載や、県内小中学校の校歌作詞の業績についても項目を設けてパネルで紹介し、地元らしさを加えた。 ・解説冊子は納期が遅れてしまったが、協力者各所に贈呈したところ、松岡譲の生涯や著作などをカラー図版入りで解説した手ごろな冊子はこれまでになかった、と反響があった。また、贈呈先から追加で複数冊購入申し込みもあった。 <p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説パネルにじっくりと目を通している来館者も多かった。解説冊子を会期中に販売することができていればより販売数が伸びていたと思われる。今後展示解説冊子を作る機会があれば、今回の反省を踏まえて次に生かしたい。 |
| 担当 | 伊豆名 皓美 |

③ 新潟県文化祭 2021 参加協賛事業 「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」

| | |
|-------|---|
| 会期 | 2021(令和3)年11月23日(火・祝)～2022(令和4)年3月6日(日) 84日間 前期:11月23日(火・祝)～1月16日(日) 42日間 後期:1月18日(火)～3月6日(日) 42日間 |
| 主催 | にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社 |
| 共催 | 新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ |
| 協力企業 | 田村紙商事株式会社 |
| 展示協力 | 新潟市潟東樋口記念美術館・新潟市潟東歴史民俗資料館、中島榮一氏、橋本博文氏 |
| 趣旨 | <p>かつて明治後期の画壇で名をはせ、その後ほとんど埋もれてしまった日本画家の三兄弟がいます。新潟市に生まれた尾竹越堂、竹坡、国観です。とりわけ竹坡(1878～1936年)は、岡倉天心から「天才」とまで言われた画家でした。</p> <p>富山で売薬版画の下絵画家として青年時代を過ごしたのち、日本画家を志して上京。明治・大正期の日本画壇で活躍しますが、岡倉天心が会長を務め、竹坡が入会した「国画玉成会」第1回展覧会の審査員選びが紛糾して退会。その後は文部省の美術行政を改革しようと国会議員に立候補しますが、落選。人気作家でありながらも波乱の人生を送りました。</p> <p>本展では、今日も美術愛好家に人気のある作品や関連資料とともに尾竹竹坡を紹介しました。</p> |
| 紹介文化人 | 尾竹竹坡(新潟市)、尾竹越堂(新潟市)、尾竹国観(新潟市)、露谷虹児(新発田市) |
| 協力団体 | 展示協力と同じ |

| | |
|---|--|
| 及び個人 展 示 | 明治末期から大正期にかけて、文展（文部省美術展覧会）で活躍した日本画家・尾竹竹坡について、尾竹兄弟の研究者や尾竹作品の収集家が所蔵する作品と関連資料を展示して紹介した。あわせて、尾竹竹坡の兄・越堂と弟・国観、竹坡の弟子・落谷虹児（新発田市出身）など新潟県の文化人も資料とともに紹介した。 |
| 関連事業 | ① 尾竹竹坡研究者 中島榮一氏による講演会「尾竹竹坡～作品の変遷」 参加者数：81名 開催日：1月10日（月・祝） 会場：新潟日報メディアシップ2階 日報ホール 講師：中島榮一氏（新潟市潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館 前館長） ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、定員100名で募集。 ② 作品解説会 全2回 参加者総数：12名 開催日：12月18日（土）、2月26日（土） ※ 1月22日（土）は新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止した。 会場：当館 担当：石垣雅美 |
| 広 報 | ① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（A3、片面カラー）2種類600部（各種300部）（県内顕彰施設や図書館などに発送） ② 新聞広告：新潟日報、新潟日報おとなプラス（23回掲載） ③ ラジオCM：BSNラジオ ④ ウェブサイト：当館、メディアシップ ⑤ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報） |
| 掲載記事 または番組 | 11月26日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー 展覧会（企画展示案内） 12月1日（水）NIPPO TAKE A WALK 2021年12月号 みんなの掲示板（企画展示の案内） 12月10日（金）新潟日報「新潟市出身・日本画家 竹坡の波瀾の生涯 地元で企画展」（企画展示の取材記事） 12月24日（金）新潟日報 文化欄 展覧会へようこそ「『独学の人』再評価の動き」（執筆者：石垣雅美） 12月24日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー 展覧会 12月25日（土）新潟日報おとなプラス まちの掲示板（1/10講演会の案内） 1月3日（月） NIPPO TAKE A WALK 2022年1月号 みんなの掲示板 1月15日（土）新潟日報 地域面（新潟市）「尾竹竹坡の挑戦知って 市出身の日本画家 中央区で講演会」（1月10日中島榮一氏講演会の取材記事） 1月28日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー 展覧会 1月29日（土）新潟日報おとなプラス まちの掲示板（企画展示の案内） 2月1日（火）新潟日報おとなプラス まちの掲示板 2月4日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー 展覧会 2月7日（月）新潟日報おとなプラス 特集「画壇の風雲児 尾竹竹坡」（尾竹竹坡の特集記事、企画展示の開催案内あり、執筆：おとなプラスライター・和田明子氏） 2月25日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー 展覧会 3月4日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー 展覧会 |
| 入館者数 | 1,369人（うち有料1,081人） |
| 総括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など） | ○ 評価点 ・新潟市潟東樋口記念美術館・新潟市潟東歴史民俗資料館（以下、潟東樋口記念美術館等）の中島榮一前館長と橋本博文現館長にご協力いただき展覧会の準備ができた。この縁により、潟東樋口記念美術館が準備している次年度以降企画展での調査支援をすることとなった。 ・ご協力いただいた中島榮一氏の講演会を開催することができた。潟東樋口記念美術館等の館長時代の中島氏は作品解説会で話すことが多く、講演会で話すことは殆どなかった。講師が高齢という事もあり、登壇する機会が少なくなることが想定されたため、一部美術ファンからは中島氏の講演会を開催してほしいとの意見を聞いていた。感染状況が落ち着いていた時期でもあり、感染者が出る事無くイベントを終了することができた。 ・準備段階で、研究者も初見の新聞記事を見つけて、調査資料を共有することができた。この共有を尾竹竹坡顕彰活動の継続につなげたい。 ■ 検討課題 ・県内他館での美術展が数少ない時期であったため、竹坡作品を観にいらした美術ファンから展示作品（前期9点、後期8点）が少ないとのご意見を多数いただいた。チラシやポスター、 |

| | |
|----|--|
| | 広告などで美術館ではなく人物館だとの案内が必要だと認識した。人物館として、人をみせることについて再考し、次に生かしたい。 |
| 担当 | 石垣 雅美 |

2. ネットワーク協議会事業

| 事業名 | 内容 |
|------------------------|---|
| (1) 第5回にいがた文化ネットワーク協議会 | (新型コロナウイルス拡大により R2 年度開催を延期) 開催日時：令和3年10月11日(月)午後 会場：新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム 参加団体：5団体 議案：① 新型コロナウイルス下での情報交換 ② 県内顕彰施設及び団体間での協力体制案(共通観覧券、スタンプラリー等)について |
| (2) 出張展示支援 | ①「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」 会期：2021(令和3)年4月6日～7月11日 後援：南魚沼市教育委員会 展示協力：因幡純雄氏(水島あやめ伝記著者) ②「生誕130年 松岡譲」 会期：2021(令和3)年7月27日～11月3日 展示協力：長岡市立中央図書館、長岡ペンクラブ ③「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」 会期：11月23日～2022(令和4)年3月6日 展示協力：新潟市潟東樋口記念美術館・新潟市潟東歴史民俗資料館 ※①、②、③とも展示場所は当館展示室 |
| (3) 館報の発行 | 誌面名：「にいがた文化」第7号 発行：2022(令和4)年3月 仕様：20ページ、A4、カラー印刷 内容：表紙 尾竹竹坡、国観《松一木》(個人蔵) p15 にいがた文化ネットワーク協議会参加館の取り組み紹介 寄稿「上越市前島密記念博物館(前島記念館)」 執筆 前島記念館 利根川 文男 館長 P16～20 新潟県内の文化人顕彰施設・団体からのPR情報(ネットワーク館) 発行部数：6,000部(無料頒布) 頒布先：県内文化施設、図書館、学校等 |
| (4) PR動画作成呼びかけ | 〔顕彰館・団体への動画制作呼びかけ〕 R3年度内の動画作成は無し |
| (5) 参加団体による出張講座 | (R3年度パイロット事業) 講座名：「化政文化の潮流から見る 巻菱湖と浮世絵」 講師：磯島瑛俊氏(巻菱湖記念時代館顧問) 開催日時：令和4年1月15日(土)午後1時30分～4時30分 会場：新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム 参加者数：28名 |

3. 教育普及事業

(1) 担当学芸員による解説会(参加者総数：56名) ※2020(令和2)年度実績：24名

| 事業名 | 開催日 | 内容 | 参加人数 |
|---------------------|---------|-----------|------|
| 「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」 | 4/17(土) | 担当：石垣 雅美 | 5名 |
| 「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」 | 5/15(土) | 担当：石垣 雅美 | 4名 |
| 「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」 | 6/19(土) | 担当：石垣 雅美 | 8名 |
| 「生誕130年 松岡譲」 | 8/14(土) | 担当：伊豆名 皓美 | 3名 |
| 「生誕130年 松岡譲」 | 9/11(土) | 担当：伊豆名 皓美 | 14名 |

| | | | |
|------------------|-------------|-----------|-------------|
| 「生誕 130 年 松岡譲」 | 10 / 16 (土) | 担当：伊豆名 皓美 | 10 名 |
| 「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」 | 12 / 18 (土) | 担当：石垣 雅美 | 2 名 |
| 「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」 | 1 / 22 (土) | 担当：石垣 雅美 | 感染拡大防止のため中止 |
| 「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」 | 2 / 26 (土) | 担当：石垣 雅美 | 10 名 |

(2) 企画展示関連講演会（参加者総数：176名） ※2020（令和2）年度実績：39名

| 事業名 | 開催日 | 内容 | 参加者数 |
|---|--------------|---|------|
| 無声映画『明け行く空』活動写真弁士・音楽付き上映と講演「日本初の女流脚本家・少女小説作家 水島あやめ」 | 5 / 28 (金) | 活動写真弁士：佐々木亜希子氏、ピアニスト：永田雅代氏、講師：因幡純雄氏（水島あやめ研究家） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール | 95 名 |
| 講演会「尾竹竹坡～作品の変遷～」 | 1 / 10 (月・祝) | 講師：中島榮一氏（前新潟市潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館館長） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール | 81 名 |

(3) ネットワーク協議会事業関連講演会（参加者総数：28名）

| 事業名 | 開催日 | 内容 | 参加者数 |
|--|------------|---|------|
| にいがた文化ネットワーク協議会連続講座① 「化政文化の潮流から見る巻菱湖と浮世絵」 | 1 / 15 (土) | 講師：磯島瑛俊（巻菱湖記念時代館顧問） 会場：メディアシップ 6 階 ナレッジルーム | 28 名 |

(4) 学校との連携事業（参加者総数：0名） ※2020（令和2）年度は0名

※2021年度に来館した小中学校数及び生徒数：7校、97名（2020年度：5校、52名）

(5) 館外での活動（執筆、講座、講演会など）

■ 執筆活動

| タイトル・掲載時期 | 掲載日 | 内容 | 執筆者 |
|---|-------------|---|--------|
| 季刊誌『リバーバンク R リポート第33号』寄稿 「にいがた文化の記憶館から発信する県内の偉人 企画展示『生誕 130 年 松岡譲』を企画して思う」 | 10 月 | 当該誌の編集担当者（長岡ペンクラブ会員）からの依頼。当館で紹介している県内の偉人の活躍及び松岡譲展の概要を紹介 | 伊豆名 皓美 |
| 新潟日報「展覧会へようこそ」 「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」 | 12 / 24 (金) | 企画展示「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」を紹介 | 石垣 雅美 |

■ 講座、講演会など（参加者総数：55名） ※2020（令和2）年度は218名

| 事業名 | 開催日 | 内容 | 参加者数 |
|---|------------|-------------------------------------|------|
| 新潟県市町村総合組合主催、R3 年度市町村職員研修 一般職員研修第 2 部 第 3 回講演「近代のパンデミック、近代新潟県が輩出した医学者、近現代の文化的偉人を輩出した新潟県、偉人輩 | 7 / 19 (月) | 担当：武藤 斌事務局長 会場：新潟県自治会館本館 201 会議室 | 30 名 |

| | | | |
|---------------------------|---------|----------------------------|-----|
| 出の背景、日本の文化をになった新潟人」 | | | |
| いきいき男のセミナー主催、いきいき男のセミナー講演 | 11/8(月) | 担当：武藤 斌事務局長 会場：坂井輪地区公民館 | 25名 |

4. 調査及び研究・研修事業

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

5. 収集・保存、資料貸出

■ 資料の寄贈受入

| 資料名 | 関連文化人名 | 件数 |
|-----|--------------|-----|
| 原稿 | 小松 重男（新潟市出身） | 34枚 |

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧（企画展示関連記事をのぞく）

| 掲載紙名 | 掲載日 | 見出し | 執筆者等 |
|------|----------------------|--|---------------|
| 新潟日報 | 4/20(火) | もっとあなたに特別報道班「原稿用紙に熟考の跡 故小松重男さん小説『のどぐろ』手書き34枚、収録本を公開」 | 黒島 亮氏（新潟日報記者） |
| 新潟日報 | 4/25(日) | 魅力∞無限大 8 地域面から もっとあなたに特別報道班「小松さんが描くふるさと」 | 黒島 亮氏（新潟日報記者） |
| 新潟日報 | 9/4(土) | 「9月定例会 弥彦村会は6人6日に一般質問」 | — |
| 新潟日報 | 10/20(火) | 「文化振興新聞が果たす役割とは… 安吾の『3通の手紙』公開 11月3日まで にいがた文化の記憶館」 | — |
| 新潟日報 | 11/3(水・祝) | 「新潟出身の映画評論家 佐藤忠男さんが来県 文化の記憶館を訪問 新潟」 | — |
| 新潟日報 | 11/14(日) 11/18(木) | 広告「2020年度 維持会員・パスポート会員の皆様 ご支援感謝致します」 | — |
| 新潟日報 | 3/22(火) | 「佐藤忠男さん死去 映画へ人へ愛あふれ 県内関係者ら悼む」 | — |

3. 事業別評価

| 事業名 | 評価点 (○) | 改善点 (▲)・今後の課題 (■) | |
|-----|------------|---|--|
| 展 示 | 常設展示 (相関図) | <p>○ ワクチン接種の普及により、タッチパネルの使用を再開した。アンケートで「日常が戻ってきた」との感想をいただいた。</p> <p>○ 令和3年度に文化功労者に認定された新潟県人を紹介するパネルを設置した。</p> <p>○ 常設展示の相関図や個人パネルで紹介している文化人と、企画展示の紹介文化人との関連資料などを展示した。</p> | <p>■ 企画展示毎に常設コーナーも展示替えをしているが、外部の方から常設展示がいつも同じなどの感想をいただくことがある。展示替えしたことを知ってもらうためのPR方法を考えたい。</p> |
| | 企画展示 | <p>○ 顕彰館がない文化人を紹介した企画展示を開催することができた。それにより、地元の自治体や顕彰団体との連携を図ることができた。</p> <p>○ 新型コロナウイルス対策を講じて、関連イベン</p> | <p>■ 絵画作品を主とした企画展示では、展示スペースが小さいため、通常の美術展を想定して来館されるお客様から展示点数が少ないなどのご意見をいただくことが多かった。展示方法や観覧料などを検</p> |

| | | | |
|-----------|--------------|--|---|
| | | トを開催。参加者から好評を得ることができた。 ○ SNS ゲームとタイアップしたことにより、全国のゲームファンに来館してもらえた。 | 討したい。 |
| ネットワーク協議会 | 協議会 | ○ 第5回協議会を開催し、感染禍での顕彰活動について情報共有ができた。 | ■ 事業計画時点では6月に開催予定であったが、感染拡大により10月に延期した。ここ数年は声掛けなどが出来ていないこともあり、参加団体は5団体のみであった。感染終息後を見据えて、連携を強化したい。 |
| | 顕彰施設及び団体との連携 | ○ 当館での企画展示により、関係施設などの顕彰活動が活発化したようである。 | |
| | 館報 | ○ 導入時と比較して、広告掲載企業が増えた。次年度以降のページ構成を工夫した。 | |
| | PR動画作成呼びかけ | | ■ R3年3月に各館へ呼びかけ文書を配布したためか、R4年3月まで反応は無い。すでに動画を作成してる館もあるため、動画作成後のPRを含めた呼びかけが必要かと考えている。計画を練り直したい。 |
| | 出張講座 | | ■ R3年度はパイロット事業として開催したが、複数年度で継続できるよう仕組みを見直したい。 |
| 教育普及 | イベント、講演・解説 | | ■ 解説会では、参加者と距離を取るなど感染対策に取り組んでいる。 |
| | 副読本・偉人かるた | ○ 文化功労者が増えたことから、副読本パンフレットを改定した。 | ■ 以前からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりを進めたい。 |
| 調査・研究 | | ○ 基本とする文化人データを調査、蓄積している。 ○ 企画展示の準備や照会依頼により、文化人の調査ができた。 | ■ 文化人データベース構築で使用するアプリケーションなどハード面の見直しを進めたい。 |
| 人物選定委員会 | | ○ 新たな人物に関する資料の収集を続けている。 | |
| 広報 | | ○ Facebookでの発信により、当館ウェブサイトを読覧したり、直接来館したりするきっかけ作りが出来てきている様子。 | ■ 紙媒体とSNSではそれぞれ対象を絞り、より効果的な広報を計画したい。 |

4. 財団運営業務

1. 会議の開催状況

(1) 理事会

| | 開催日・会場 | 主な議事 |
|-------------|----------------------------|---|
| 第1回 (定時) | 令和3年5月7日 新潟日報メディアプラス3階 | [議事] 1. 2020(令和2)年度 事業報告案の件 2. 2020(令和2)年度 決算案の件(監査報告) [報告] ・職員給与規定案の件 |
| 第2回 (定時) | 令和4年3月22日 新潟日報メディアプラス3階 | [議事] 1. 2022(令和4)年度 事業計画案 2. 2022(令和4)年度 予算案 3. 展示室開館時間の短縮案 4. 職員給与規定案 5. 事務局の新体制案 [報告] 1. 2022(令和4)年度第1回(決算)理事会、評議員会の開催時期について |

(2) 評議員会

| | 開催日・会場 | 主な議事 |
|-------------|------------------------------------|---|
| 第1回 (定時) | 令和3年5月26日 新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム | [議事] 1. 2020(令和2)年度 事業報告案の件 2. 2020(令和2)年度 決算案の件(監査報告) |
| 第2回 (定時) | 令和4年3月22日 新潟日報メディアプラス3階 | [議事] 1. 2022(令和4)年度 事業計画案 2. 2022(令和4)年度 予算案 3. 展示室開館時間の短縮案 4. 職員給与規定案 5. 事務局の新体制案 [報告] 1. 2022(令和4)年度第1回(決算)理事会、評議員会の開催時期について |

2. 組織

(1) 役員等の人数(令和4年3月31日現在)

| | | |
|-----|-----|---|
| 評議員 | 14名 | 令和3年3月23日から現体制 |
| 理事 | 10名 | 理事内訳(代表理事2名、館長・理事1名、常務理事・事務局長1名、理事6名) 令和3年3月23日から理事を1名増員 |
| 監事 | 1名 | |

(2) 職員数(令和4年3月31日現在)

| 館長 | 事務局長 | 職員 | 準職員 | 計 |
|----|------|----|-----|----|
| 1名 | 1名 | 2名 | 1名 | 5名 |

※ 学芸顧問2名

(3) 組織図（令和4年3月31日現在）

